

曲亭馬琴著

傾城水滸

傳第六編

歌川國安画
上帙卷之上



壹

傾城水滸傳第六編序

無銭則變有銭則不變
毎編各上下二冊合本四冊

余曾あふ水滸傳を載する所張青孫二娘十字坡は旅客を屠
る。肉色を粥羹への一面その伎害残忍忍ぶふた極まり使是異
邦の衰世兇賊ふあふ所尤讀る忍ぶるべし且亦武松が鷲鷹樓小
張都監蔣門神小虎鹿童を殺す如くの殺戮數十人僕隸婢妾と
いふ人も一人とて免れを只是人を殺し火を放て愉快なるもの情態を
寫せるものれを義勇と云ふも用威
天朝への氣質の萬邦の
捷れするといふべし就中曾我胞兄弟が富士の狩屋に殺れ入る父乃
雙を載る若し當時宿直の勇臣ホの防戦するの不當とてこそ斬る
まて十名然れども僕隸婦女子と屠殺し刃を汚しんるを欲せざる
故の時致は五郎九郎は生拘られり是を智勇の足る所あるあまき蓋五郎

九が少女子の打扮をよめ欺れふあてこの時備武松をて時致は代ら
まの五郎九郎も亦免るべきなるべし又水滸傳の武松が蜈蚣嶺死過る
と道士師弟を殺せざるは新得る戒刀を豊かき祭らんと欲する
のいふ彼師とその徒弟の悪人を知る何ぞ殺まざる速るるむむ
筑紫の御曹司といふところの五千軍萬馬の窮死の中は在るとも當の
敵にあふるいふも言これ射せむ勇ま本意とる所當りかくの如くなる
べし今その忠孝義勇を擧ぐ水滸一百八の草賊ホは比競を死なわ
れども夜光燕石相似て非るこのエサを述ざるよむ抑余が戯れ著せる
這冊子水滸傳の脚色を撮合く凡そ彼の理義は違ふ所綴り易て
これ取て用意山帝皇是のまめ毎思ふの意味を具眼人へあづから知るべし

文政十二年己丑春正月吉新版

曲亭馬琴識



草花 園 蒼 結縷
 長尻の居酒を
 客乃酔ふども
 志びれのあふゆ
 ほうびり 團 丸



天狗損二郎



みちけく乃牛府の
 若ものも二ぬ七布
 簀砂あやうんひと



ぬふ壁 壺 壺

菅 山 陰

秋の芳名

あけ
是を奪ふ

趙西學

原の

孝

卷之五

吳昌碩

臨平公

毛門神

野衾

二 監此系苑

たまふ

あゝ後象法

やう
た
ろ

あら

待年

横嶋儀杖照行

長烟管

寒風後室
竹篋絲



9

上世の文作

七

[illegible][illegible]

This illustration depicts two women in traditional Japanese attire. The woman on the left is seated, wearing a patterned kimono with a circular label that reads "青" (Aoi). She holds a long, thin object, possibly a fan or a stick, and looks towards the right. The woman on the right is also seated, wearing a patterned kimono with a circular label that reads "損" (Sugata). She looks towards the left. Between them is a small table with a pot and a bowl. The background is filled with vertical Japanese text, which appears to be a dialogue or a narrative. The style is characteristic of Edo-period woodblock prints.

[illegible]

忠臣水滸傳繪入十冊

忠臣くくの義士おれ家傳
水滸傳おるて一編これ玉粒
かゝるべき名文乃狂本なり

水滸傳劇塲雛形

初編鶴屋南地
四冊歌川貞作

水滸傳豪傑雙六歌川國芳画

奉畫二枚、画彩色、
画面に花、鳥、人物、
あり、各々、文、字、あり

稗史水滸傳

初編六編
共十冊
實出
歌山

東京山譯
川國芳画

當世役者水滸傳

歌川國貞画

雲道客人の立者流を豪傑
小游仙に於てはたか
くはたかたる画本あり

直馬琴譯
繪本漢楚軍談

初編五編迄通俗
共二十四出來

漢書軍談を字の類方に
りて之を記すにひきあふ
るおもひは、兵書の軍書と

領城水滸傳

初編五編止先達所賣云云
六編七編八編子年秋所賣云云
歌川國安画

[illegible]

